

# “ 漁業から海業へ！ 港から湊へ!! ”

社会実験「おとなの修学旅行－木岐の海と出会える3日間－」を実施！

「阿波とくしま観光の日」である10月9日から、木岐地区で「おとなの修学旅行－木岐の海と出会える3日間－」というモニターツアーが2泊3日の日程で実施されました。

ツアーを主催した木岐まちづくり協議会は、これまで木岐地区で継続して取り組んでいる漁業体験やワーキングホリデー等の事業を発展的に継承するとともに、古民家を改修しまちづくりの拠点として運営しながら住民自治力の底上げに取り組んでいます。また、活動の延長線上には、1次産業を活かしながら地域ぐるみで総合的に価値を付加し、販売していくという「6次産業おこし」も見据えています。

今回のツアーは早大の学生有志の提案を木岐まちづくり協議会が受ける形で実現し、これまで培ってきた都市・漁村交流のノウハウを統合しながらの「6



次産業おこし」が実践を通して模索されました。

主に関東在住の20人（その多くは、田舎のまちづくりに関心の高い20歳代の若者）の参加者は、7軒の民泊先に分宿し（※宿泊施設がない木岐での暫定的な対応として）、朝5時から漁業や農業を木岐のお父さん、お母さんに教わりながら体験しました。10日の晩は、その日にとれた海の幸・山の幸をインストラクター役の住民とツアー参加者が協力して調理し、多くの住民がオープン参加する大晚餐会が催されました。大晚餐会は、昨年からの検討が重ねられている交流拠点施設を模した特設会場で行われ、住民約50名とツアー参加者20名が地産地消の料理を介して交流を楽しみました。



クライマックスは阿波踊り、初めての人も皆、踊りの輪に加わり、会場は1つのでっかい家族のようでした。

今回のツアーを通じ、地域の持続や活性化を模索しようとする際、地域の資源を統合していくためのプラットフォームとしての交流拠点の重要性が明らかになりました。また、11日に行われた住民とツアー参加者との意見交換会では、今後につながる面白いアイデアや様々な課題をいただいています。地域の将来のための新しい芽がいつか実を結ぶ時を目指して、じっくりと大切に育てていきたいと思えます。



## 「海部郡林業指導者会」平成22年度 ふれあいの森林(もり)づくり表彰を受ける

平成22年度ふれあいの森林(もり)づくり表彰において、海部郡林業指導者会が国土緑化推進機構理事長賞(全国で4件)を受賞し、10月3日群馬県において開催された第34回全国育樹祭において表彰されました。

これは、林業後継者の育成や、間伐材を利用した魚礁制作、体験型観光での「森林作業」メニューの取り入れなど、地域林業の振興に寄与したことを認められたものです。



会長の坂本登氏